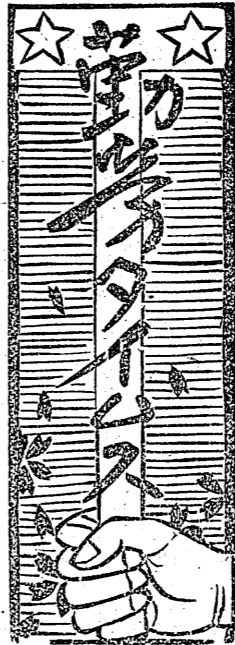


旬刊



毎月二回一、五日発行 定価 一月二十五銭 一年二百五十銭 廣告 一行一圓五十銭 一ヶ月一圓 一週一圓 印刷所 木村安次

物資の値上げは 幣貨の切下げを知れ

政府は第一封鎖第二封鎖のしたるものと知るべきであらざるやと一般民の思案する有形的切下げ断行すると...

ボツタム母體が産む

町村長はどんな顔か?

町村長其他公職にある者で、後任町村長の選定は簡便に...

新婦は先き御目見いたが 新郎はさて誰か

内郷町長元助役金澤喜氏が實現すれば聯合軍司令部は十六年間の永きに亘り内に...

資格審査の手

地方公職の資格審査を行ふため縣に公職適否資格審査委員会が出来る、この委員...

不合理な公定

飛んだ木炭の公定 飛んだ木炭一俵と米六升が遂行されるまで資格を失ふ事になる...

濱通りの初雪

今年のは昨年より二十日早く、町政上の御話もイスカの口端で相合はず三十四五才位の妻役が適當である...

釜屋商店 諸橋元三郎 電話九九九番

石城郡下の 父兄會大會開き

石城地區保護者聯合會
結成なる

去る十一月二十六日午前
十時平市第三國民學校禮法
室參集郡下代表者三十四名
外二郡下國民校教職員二十
名出席

一、發起者挨拶あり
二、經過發表
三、質疑並に意見發表
四、協議討論あり現下の教
職員の中央政府に七項目
要求に對し質問し西山錦
校長並に榑田好間校長答
辨あり榑田代表成瀬巴三
氏の今日迄の經過及今後
要求あり小名濱第三代表
駒木根神谷代表神谷一郎
草野代表坂本惣次郎、四
倉代表菊地高位各々發議
あり石城地區保護者聯合
會結成に入り議長に坂本
惣次郎氏舉げ聯合會々則
各條審議し會長委員の證
明を舉げ縣下十方部の
代表者より會長好間村金
成茂治氏副會長に神谷村
神谷一郎氏、副會長榑田
町成瀬巴三氏決定後出縣

委員に副會長二名草野坂
本惣次郎、内郷町佐藤三
平、小名濱駒木根五名出
縣各方面に運動する事決
定勿來代表の同議が出
郡下教職員要求貫徹運動
資金郡下各校壹百圓以上
の寄附金出する事決定
石城教職員支部に對し保
護者聯合會として右要求
を提出す
一、學校は赤旗を使用せざ
る事
二、先生は児童生徒を捨て
ざる事
三、石城郡内先生の生活は
貫徹迄聯合會で保證す
る事の三項目で先生達
を後援すると決議し、郡下
五十三校の鐵の團結により
全國教職員要求貫徹するた
めの運動に後援する旨萬場
一致決定午後二時閉開す

信夫地方 町長會議

信夫地方町長會議は去る十
一月九日午後一時總會を開
會會長根本正雄、木戸村双葉
き豫算その他重要事項を決
定し午後三時より退職した
町長を招待し感謝會を
催した、席上第一區選出給
木代議士から來る可き勸令
に依る退職後の町長長の覺
悟に關する演説、縣町村長
菊地幹事の追放勸令と中央
の諸事情に關する報告があ
り觀談を交して散會した

民主電力 協議會開催

一、日時昭和二十一年十二
月七日午前十時開催す
一、場所 四倉町本町青年
會館
一、名稱 四倉地區電力協
議會出席人員三十一名
議長菅波康太郎氏を舉げ議
事進行す、選舉の結果左の
役員を舉ぐ、委員長菊地高
位、委員中より選出副委員
長馬上豊(同じ)委員四倉町
警城セメント工場長岡田干
早同製塩業本田辰吉同四倉
自治會長菊地高位、大野村
旅館組合長馬上豊、大浦村
電気治療早川雅衛、久之濱
町炭礦業酒井清同製塩業日
曹亦井炭礦代表稻井忍、廣
野町精米業片岡濱七同製業

製鹽所山崎秀一、龍田村曙
炭礦代表高橋弘計十一名出
席者内澤四倉町水産加工吉
田彌十郎、郡山工機部製塩
所佐藤藤勝、磐洋製塩所横
山造船業大竹四倉自治會菊
地高位、龍詰業猪狩誠、食
糧管團所長菅波康太郎、地
區統制組合専務芳賀實、古
川製鹽所代表片野登、本田
製鹽所本田豊魚加工業長谷
川義久炭礦製鹽所代表大和
出壽男、加工業池田貞二、
大浦縣農業會磐城工場製鹽
部大谷武雄、農業會中野喜
一同電気治療早川雅衛、大
野村旅館組合長馬上豊同農
業會専務木村忠一、久之濱
炭礦製鹽等、廣野町製業會
根本正雄、同品川白練瓦代表
横山英雄同精米業片岡兵七
製鹽業稻井忍、木戸村双葉製
鹽山崎秀一同製業宇津
智親同製材業石川次郎同
木戸炭礦製鹽實龍田村曙炭
礦代表高橋弘、會社側蓬田
守之助七海武雄山野邊爲一
各位民主電力協議會申合せ
石城双葉三町五ヶ村會員代
表出席各第一より十二項目
協議打合せ午後一時閉開す
◎投稿歓迎す
勤勞タイムス社

酸素機具一般
タツブダイス工具一式
メタル、ブロー、シャフト類
機械と工具専門
佐藤鐵工販賣部
營業所 平市四丁目マルトモビル
工場 平市月見町
電話 平一二四、三六二、七三一番

和洋帳簿
紙製品
小間紙
文具
事務用品
尾張屋商店
福島縣平市五丁目

平市大町
永山洗濯舖
舖主 永山眞彦
電話 六〇六番

平市田町
萩野マサ
電話 七八六番

佛具品
佛壇
御位牌
佛金物類
造花調製
山光堂商店
常磐線平市本町四丁目
電話 五五〇日

追放は一軒飛 官吏はさうする

官廳の命に離れ従つて居た町村長が追放され更に一個の指示事項取次ぎ後の部落會長も仲間入となつたのに官廳内の官吏方面に對し旋風が吹き廻らなかつた事は甚だ隣組の道連れを忘れはしないかとの意見も起つて來たがやはり官吏にも風が吹ひてくると見られる、今後財界の追放と同時に道連れとなるであろうとのことだが程度はさうまで伸びるが確定できないが、追放の實施は勅命を待たず該當者とおぼしき者は其れ自身より進んで公職を退く可きであるまいか

勅令追放該當者 町村長退陣相次ぐ

追放に關する政府發表の明確にして貰ひたいといふ條文はなかく六個敷く從般は云ふて居る、茲にも何つて解釋もいろいろあるが割切れない点があるやうである、昭和二十年九月二日以前から引續き現在まで就任して居る町村長は退陣を余儀なくされ殊に翼賛會町村支部長或ひは翼賛壯團をやつた者はのつびきならぬので辭表する者が相次いでいる、これら追放範圍内の町村長は選舉期日はマ司令部の許可を要するのだが該當町村長が大部分退職したのを見届て内務省では退職届出を待ち居るが辭職を進めるようなことは官廳としては取りかかれないといふ、自發的退陣を希望し内相も該當町村長は慰勞金やその他にこだはる處なく善處すべきだと云つて居るが寧ろ選舉の期日を定めて其方十日前に

縣下供米の現況

平均二六%一四
今年の供米はゼネストの聲や追放に依る公職退陣の騒ぎなども手傳ひ成績如何をあらわす向きもあつたようだが十一月十日現在より調へたことに依ると縣下全面の成績左の如し
(括弧内は甘露)
耶麻郡(二四、四三) 北會津(四七、四七) 河沼(六六、二二)

田舎の銀座

あかるくなつた
綴町
終戦後行政司法のだらうか國民思想のだらうか何れのだらうか起るかは一般國民

まかりならぬ 魚類丸公二倍値上

此程本縣漁業組合關係代表入するが故にありとあつた二十余名は縣水産課長を通り返事はよかつたが其筋で賣價格二倍値上を嘆願し販賣價格は罷りならぬ然かたに對し其筋より値上の理し資材關購入の爲め採し其由を明にせよとの間に對しがこれぬとの事だが水産業漁業用資材の總ては關で購組合は關で資材購入した事

- (一四、四三)若松(五、六六、〇九)
- (二〇、六九)西白河(八、九一)
- 南會津(七、六三、二七、六)
- 信夫(三、六九、石城(三、〇二、〇一、九一)
- 七三(〇二、三三、九)
- 伊達(一、四〇、八)
- 葉二(六、九六、八)
- 福島(六、六)
- 留守に出來ざるは勿論、男一人で暗闇を通れざる極めて危険なる現在を觀み此御目玉あり代表諸氏は方法程内郷警防團長小野辰藏部一の呼び出を青くなつて待ち同協力し相當の危険を解消するの目的を以て綴町全町の電柱へ百獨電燈を点火した依て綴町全町は夜真晝の如き明るいので交通の便宜は勿論盜賊は商賣にならづ町民の一般は高枕で寢る事が出来ること悦んで居ると同時に警防團員の公共心には正に感謝して居る

松村醫院

泌尿器科 呼吸器科 皮膚科
福島縣平市白銀町
電話一〇七番

有限 共榮合作坂本興業所

社長 坂本 豊
事務所 石城郡大浦村上仁井田
常磐線四倉驛徒歩七分

新 扇屋

新しい御食事と喫茶
氣分の良い別室で
平市田町一番地
電話八四五番

敷島テント店

リックサツク 附屬品揃つて大勉強
平市六丁目

實は然かも其筋の現前で自白した限り關購入の水源地を一應取調べるから一度びを歸りて後日出頭すべしと大程内郷警防團長小野辰藏部一の手で縣廳を逃げ出し後日居るとの事とんだやぶへび

富永ラヂオ商會
富永一郎
電話四九六番

